

新編武藏國風土記稿

荏原郡

卷之四十

| | | |
|-----|-----|------|
| 和書門 | | |
| 二五五 | 二五三 | 一六五〇 |
| 冊 | 函 | 號 |

| | | |
|------|-----|------|
| 內閣文庫 | | |
| 七三 | 二五五 | 一六五〇 |
| 函 | 冊 | 號 |
| 一八 | | 類 |

| | |
|------|------------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 16510 |
| 冊數 | 255 (41) |
| 函號 | 173 210 |



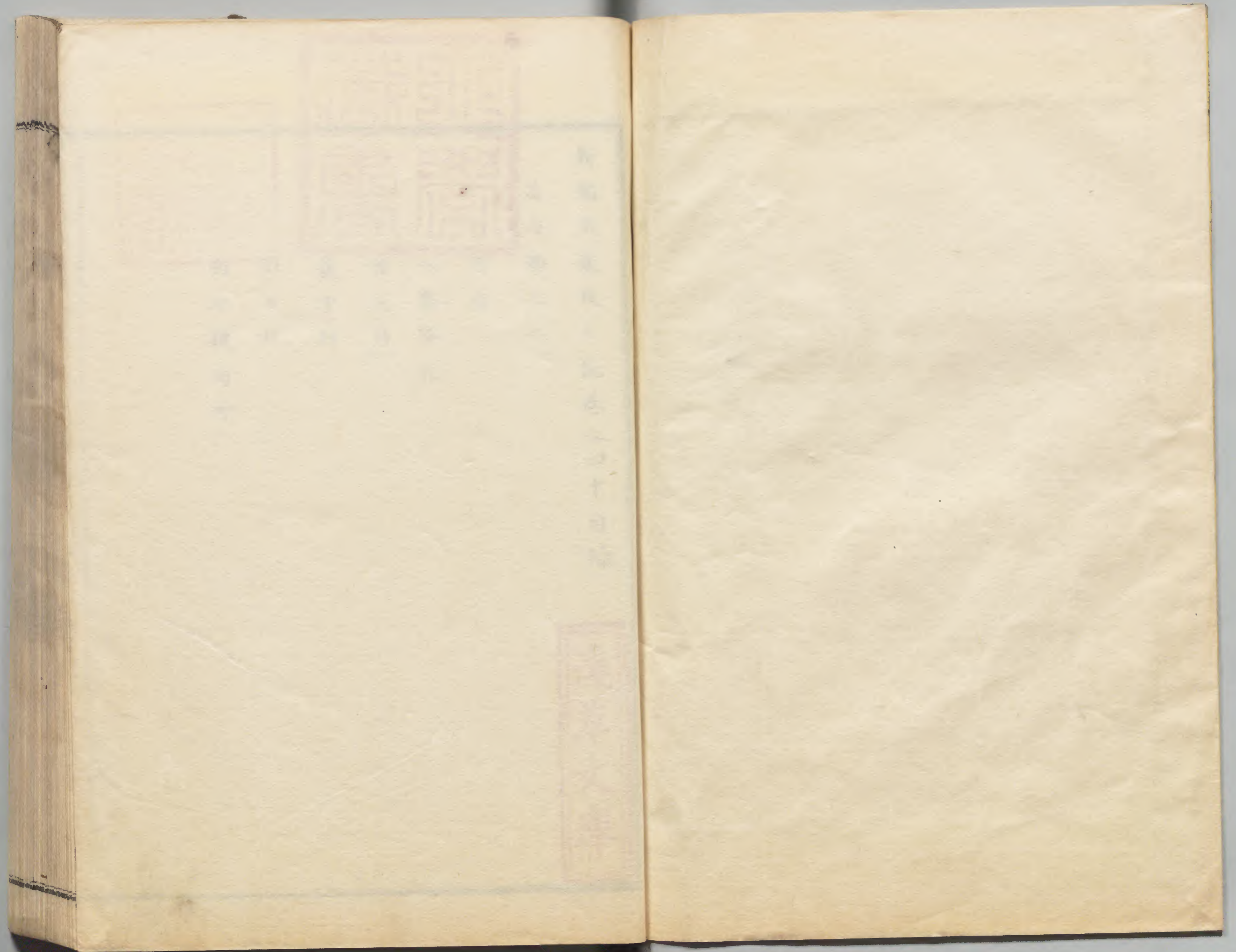
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



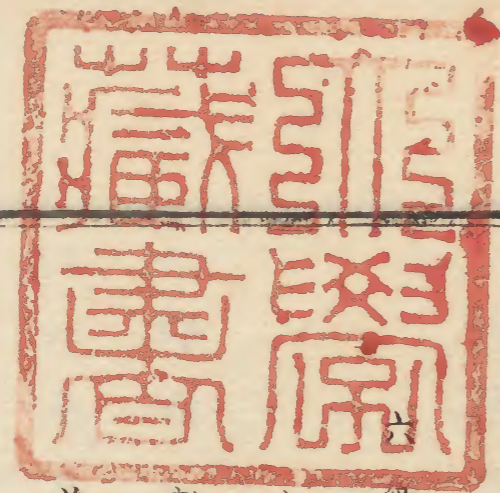
© Kodak, 2007 TM: Kodak





新編武藏風土記卷之四十目錄

荏原郡之二



郷領

八幡塚村

雑色村

萩中村

羽田村

羽田獵師町

淺草文庫

新編武藏風土記卷之四十

荏原郡之二

六郷領

六郷領ハ。郡ノ南方ナリ。多磨川ノ涯ハ幡塚。高畑。古
川。町屋。道塚。雑色ノ六村。古ハ一村ニシテ六郷村ト
イヘリト。土人ノ口碑ニ傳ヘタリ。此説ニヨレバ。六
ツノ郷ト云義ヲ村名トセシナリ。古クハ村名或ハ
小名ヲモ郷ト呼シユトシ、見エタリ。又延寶ノ頃
ノ紀行ニ載ス。今ノ六郷ノ渡ヨリ上ツカタ六郷ノ

流。落合テ東海ニ朝宗ス。故ニ此名アリト。今ハ是等ノ説モ其地ニテハ傳ヘズ。何レ六郷トサス處ハ八幡塚邊ヨリ起リレ唱ナリ。領名ト云コトハ古書ニハ見及バズ。鎌倉時代ノ書ニハ所見アレバ。其頃ヨリハ專唱ヘシ所モアリレナルベシ。然ルニ御入國後。御城下四方ノ近郊ヘ屢御遊歴アリレニヨリ。領名ヲ以地ノ界域ヲワカタクレ。御遊歴アル時ハ其所ノ領内ヨリ人夫ヲ出スコトアリ。當郡モ御城下ニ郊タルヲ以。イヅレノ地ニモ皆領名アリトゾ。サレバ此邊ノ領ト唱フルハ。東鑑ナドノ頃定

メラレシトハ其趣モチガヒ古キコトニハアラザルベシ故ニソノ領名ノ字ハ古ヘノ郷庄ノ名ヲ用ヒテ領名トセシモ多カラシ六郷ノ名モヨリ来レコト久シ應永七年鎌倉公方源満兼鶴岡社領寄附状ニ武藏國六郷保トアリ保ト云モ保伍ノ保ニテ郷領ナドノ如ク唱ヘシコト古書ニテ見エタリ又小田原北條家分限帳ノスル處六郷殿及ヒ行方與次郎蒲田助五郎太田新六郎等所領ノ内六郷ノ名見ユ且六郷ノ内極樂寺谷六貫五十文ナド云アリ今郷中ヲ尋レニ極樂寺谷ト云地名ナシ其餘疆

域モ今トハタガヒアリ多クハ多磨川涯ノ村々瀬
ノカハリタルニヨリテ變革アリシ地ナリ又今ノ
品川領及ビ馬込領ノ内ニモ六郷ノ地ハアリシ十
リ猶ソノ條下ニツキテ見ルベシ今ハ領内村數三
十四村皆郷庄ノ唱ヘテ失フ四方ノ疆界ハ南ノ方
多磨川ヲ界トシテ東ハ羽田村ノ出崎ヨリ西ノ方
へニ里二十九町餘多磨川ノ岸屈曲シテ西北へ欠
入タルゴトク斜メニ鵜ノ木村ノ境ニ至レリコトヨ
リ北ノ方へ十三町餘ノ間ハ世田ヶ谷領ニ隣レリ西
北ノ隅ヨリ東ノ方領内荒井宿ニテハ皆馬込領ニ

隣リテ。コノ間五十五町餘。ソノ塚ヒハナハダ犬牙
セリ。品川領トノ塚ヒハ。總テ品川領ノ内大井村ニ
トナリテ。東ノ方海ニ至レニテ。九町餘ニ及ベリ。ソ
レヨリハ海岸屈曲シテ。南ノ方羽田村ノ湊橋ニテ
五十二町餘ナリ。領内ノ中央ヨリハ東へヨリテ。東
海道ノ往還南ヨリ北へツラヌケリ。此往還領内ニ
カ、ルコト五十三町餘ナリ。コレモ昔ノ街道トハ
變革アリシコトハ。其村々ノ條下ニ出セリ。

八幡塚村

八幡塚村ハ。郡ノ南ノ境。多磨川ノ涯ニアリ。江戸日
本橋ヨリ行程四里。村名ノ起リシ故ハ。鎮守八幡ノ
社地ニハ幡塚ト號スル塚アルニヨレリ。然ルニ永
禄二年ノ小田原分限帳ニハ。當所ヲ六郷ト記シ。又
天正十九年八幡社領ノ事ヲ記セシ文ニモ。荏原郡
六郷トアリ。土人モ古ハ六郷村ト唱ヘシト云傳フ
レバ。今ノ村名ハ後世ニ起リシコト知ベシ。正保ノ
頃ノ國圖ニ六郷八幡塚町トアレバ。コノ頃ハ既ニ

今ノ地名ヲ唱ヘシナリ。猶領名ノ説ト照シ見ベシ。
家數百五十二軒。東ハ雜色。羽田。菰中ノ三村ニ錯リ。
南ハ多磨川ヲ隔テ橘樹郡川崎。堀内。大師河原。川中
嶋等ノ數村ニ隣ル。ソノ内川崎。堀内ノ内ニハ飛地段
別十町餘アリ。西ハ高畑。古川。原ノ三村ニ塚ヒ。北ハ
新病。町屋。道塚ノ三村ニ接ス。總テ四方ノ境塚大畧
ハカクノ如クナレド。其實ハ八十餘箇所ノ飛地。隣
村ニ散在シテ。其塚別テガタシ。東西九十三町南北
十八町餘。ナベテ平ニシテ。水陸ノ田相半セリ。村内
東海道ノ往還南北へ貫ヌケリ。村民多ク其左右ニ

軒ヲ連ラヌ。相傳フ昔ハ此街道。今ノ所ヨリ東ノ方
ニハルカ隔テ、アリシヲ。元和九年
台徳院殿御上洛ノ時。今ノ地ニカヘツクラレシト。
今モモトノ道ヲ古街道ト稱シテ其形殘レリ。當所
ノ開ケシハイト古キコトナルベシ。林春齋六郷橋
吟。自註ニ。土人ノ話ヲノセテ。此地ハ畠山重忠居住
ノ所ナリ。重忠ハ當國ノ甲族ニシテ。鎌倉へモ屢往
來セレナレバ。別館ナド設シモ。レレベカラズトイ
ヘリ。此等ノコトモ年代モフリタレバ。今ヨリ考フ
ベカラズ。又東鑑等ニハ。所見ナキコトナリ。小田原

北條家分國ノ頃ハ。行方彈正明連ガ世々ノ領地ナリ。小田原分限帳ニ。六郷大師河原共ニ三百六十一貫二十四文ノ地ヲ。行方與次郎領セシヨレヲ載セタリ。與次郎ハ。明連ガ始ノ假名ナリ。コレヨリ子孫修理亮義安。彈正直清ニ至ルニテ知行セシニ。北條家滅亡ニ至リテ。其地ヲ失ヘリ。御入國ノ後ハ長谷川七左衛門ガ御代官所トナリ。其後伊奈半十郎忠治カハリ。夫ヨリ子孫半左衛門忠克。半十郎忠常。半十郎忠篤ニ至レリ。此頃元祿八年織田越前守信久奉行シテ檢地セリ。忠篤没シテ後。半左衛門忠順

職ヲツギ。其子半左衛門忠達ニ及ブ。此時新墾ノ田アリ。寛播磨守檢地シテ貢稅ヲサダム。時ニ享保十八年ナリ。其後半左衛門忠通。備前守忠宥。半左衛門忠敬。右近將監忠尊ニ至ルニテ支配セリ。忠尊罪アリテ職ヲ失ヒテヨリ。大貫次右衛門光豊支配ス。其餘八幡社領十八石ハ。天正十九ヨリ今ニ至ルニテ。別當寶珠院進退ス。

小名

梅泉 街道ヨリ西ノ方ナリ。
大沼耕地 街道ヨリ東ニアリ。

浮^{ウキ}面^シ耕地 村ノ北。新編村境ニアリ。

小^コ沼^ヌ耕地 街道ノ東ニアリ。此所ニモ村

民ノ宅地數軒アリ。

燒^ヤ塚^{ヅカ} 村北ノ境ニテ。西ノ方隣村へ挿入

タル地ナリ。コ、ニモ民家七軒バカリ

アリ。相傳フ。昔雷火ノ爲ニ燒失セシト

キ。灰燼ヲアツメテ塚ヲ築キシ故。コノ

名オコレリト。

浮^{ウキ}嶋^{シマ} 往還ヨリ西ノ方。多磨川ノ邊ニア

リ。ワキテ高キ地ニモアラザレドモ。洪

水ノ時近郷ノ人家。軒ヲヒタスニ至レ
ドモ。此地ニ水溢ノコトナシ。故ニ浮嶋
ト字セシト云。

山川

多磨川 村ノ南ヲ流レ。西ノ方高畑村ヨリ流レ来

リ。羽田村ト橋樹郡大師河原村トノ間ニ入ル。此

間川幅。セバキ所ニテ七十間。廣キ所ニテハ百十

間ニ及ベリ。或人ノ考ニ。永禄ノ頃ハ此川川崎大

師河原等ノ村々ヨリ南ヲ流レシト。サレド永禄

十二年信玄亂入ノ時。當所ノ橋ヲ切オトセシコ

ト小田原記ニ見エタレハ。此説モウケガタシ。

原野

芝野 二十三歩餘。

渡津

六郷渡 附橋迹 東海道ノ往還ニアリ。川ヲ渡リテ

橋樹郡川崎病へ達ス。此所ニ昔ハ橋アリ。其ハジ
メテ造リシ年代ハシラザレド。永祿十二年信玄
當國へ亂入ノトキ。北條家ノ侍行方彈正六郷橋
ヲヤキオトシテ。甲州勢ヲ止メシコトアリ。コノ
後三十餘年タエタリシヲ。慶長五年ノ復

東照宮フタハヒ橋ヲ造ラシメタニヒシコト。當
所ハ幡宮へノ御願文ニ見エタリ。寛永二十年。林
春齋京都ヨリ歸来リ。此所ヲ過テ古詩ヲ賦セシ
コト。癸未紀行ニ載ス。

六郷橋吟

俗説。白山重忠嘗居于此。雖不考于舊記。然重
忠者武列甲族。而屢往來鎌倉。則不可無其理。
故首句及此。

河崎東畔六郷里。俗稱重忠居此村。重忠武列七
黨長。攻城野戰報君恩。攀龍附鳳勇功士。往事悠

悠遠蹤蛇。橋去江城五里許。出者入者日頻繁。閩
國列侯會同處。輿馬劔矛僕從喧。異域來朝投化
者。萬歲高呼可汗尊。士農工商幾多過。皆是名走
兼利奔。可笑尾生約女子。何用禪徒弄胡猻。玄霜
搗盡嘲裴氏。丁卯吟成憶許渾。菊花過後自斯出。
顧視江城殆消魂。早梅開時自斯入。跋及江城望
衡門。三月遠征幸歸府。今日歡拊不可言。
年經ヲ損壞セシヨリ。寛文二年天和三年等造
リ改メラレケリ。此時ノ橋ハ長百十一間。幅四間
二尺アリシトイヘリ。其後元禄元年七月二十一

日洪水ノ爲ニ流レ落テヨリ。永ク廢セラレ。其後
船渡トナリテ。當村ノ持ナリシニ。寶永六年ヨリ
川崎病ノ持トナル。元禄ヨリ以來年々ニ兩岸欠
イリテ。今ハ川幅潮満ル時ハ百四十間。潮涸レバ
百五間ナリ。

作場渡 六郷渡ノ下流ニアリテ。對岸ノ飛地へ通
ズ。村持ノ船渡ナリ。

水利

多磨川分水 六郷用水ノ支流ナリ。水上ニテ野々
ニ引用ヒシ餘水ナレバ。年々涸水ノ患アリ。

堤。多磨川ノ涯ニアリ。長十町餘。

神社

八幡社 村ノ東側ニアリ。社地社領ノ内ニアルラ
モツテ。別ニ除地ナシ。當所及ビ高畑。古川。町屋。道
塚。雑色等六ヶ村ノ總鎮守ナリ。武州式内神社考
ニハ。當社ヲ稗田神社トス。然ルニ稗田神社ト稱
スルモノ。當所トモニ四社アリ。芝田町八幡社。蒲
田村八幡社。及ビ鷺木村名主。五郎右衛門ガ宅地
ニ祀レト鷺森明神。コノ三社モ皆稗田神社ナリ
ト云。カクノ如ク所々ニアレハ。イヅレヲソレト

モサダムベカラザレド。蒲田村八幡社ハ。神祇管
領吉田家ヨリ。稗田ノ號ヲユレサレシト云ト。キ
ハ。コレヲ是トスベキニヤ。當社ノツタヘニ當所
八幡宮ハ。右大将頼朝ノ建立ニシテ。祭神三座ア
リト又云。頼朝ノ高祖義家奥州征伐ノ時。鶴ヶ岡八
幡宮ニ祈請アリテ。コノ地ニ旗ヲタテラレシニ。
立願空シカラザリシ吉例アレバトテ。頼朝モミ
タ奥州下向ノトキ。コノ地ニ旗ヲゾタテラレケ
ル。サテコソ勝利アリシカバ。凱旋ノ後新ニ建立
アリシトゾ。コレ建久二年ノ事ニテ。當時ノ棟札

今ニ存セリト。或ハイフ奥列征伐ノトキノ勸請
ニアラズ。石橋合戦敗北ノ後。安房國ヨリ上總國
へ渡海アリテ。フタ、ビ旗ヲアゲタニヒシトキ。
當所ニ旗ヲタテラレ。ヤガテ開運ノ後鶴ヶ岡八幡
ヲコノ所へ勸請シテ。神輿ノ内ニ来由ヲ書記シ
ガタク。封ジテ納メオカレシトモイヒ。又ハ頼朝
ノ勸請ニアラズ。竹内某建立セシトモイヒ傳へ
リ。イヅレノ説ヲ得タリトヒニヤ知ベカラズ。コ
ノ後モ世々修造アリシトテ棟札存ヒリ。小田原
記ニ。永祿十二年武田信玄亂入ノトキ。六郷ノ行

方彈正己ガ屋鋪ノ近所ナル。八幡ヲ要害ニカニ
ヘテ守リシトアルハ。當社ノコトナリ。御入國
ノ頃
東照宮御遊獵ノ次。當社へ詣テタマヒ。明十九年
十一月社領十八石ノ地ヲ御寄附アリ。其文左ノ
如シ。

家進八幡

武藏國在原郡

六分之内

拾八石之多

右之家跡記係

可理我軍一書久

精誠也。仍如件。

天正十九年

十二月日

御朱印

又慶長五年納ノ夕ニヒシ御願書ノ寫アリ。

祝事

敬供再拜々々

敬白祝事

維當來慶長歲次五^上田^章月並十月二月。日數三百五十餘箇日。謹敬白。

夫八幡大菩薩者。扶桑朝廷之本主。累代明君之

肇祖。爲守四海。爲利衆生。顯三身尊容。撥三所權。現。簾而今月。今日。欲奉初渡。武州在。原郡與橋郡。境。河新橋。其趣。意祝奉宣狀。
抑此龍淵者。稱玉河。玉則崑崙合浦寶器玉也。河則三峽四瀆。瀨氣流也。南七社靈廟。新顯朱雀瑞。北三社寶殿。惟示玄武相。東巨海。壘波浪。臻青龍城。西士峰積素雪。移白虎粧。夫雖非屋宅。四神相應。黃河盡善盡美。雖爾都鄙。往還津。雖似七里灘。勝景峻。貴賤萬民。抱苦辛。因茲征夷大將軍。從一位。右大臣源朝臣家康。抽呂一心。清淨誠。此河欲

渡掛馬類山檜杉。南峰槁梓。搜歛召大工。居鍛冶。不日不月。成功事訖。煥巍々乎。日域無雙。鷹齒百餘間。古今希有橋也。□□惟未曾有。恐虹漲之橋。不異者歟。故緇素同。幼長均。牛馬共歡喜々々。踊躍々々。抃躍至不耐乎足。殊。雖巨海深。羅睺阿修羅王脚能極其底。雖蘊迷高。威神力大士手。能取鳥擲他方。此故巨海深。非深。蘇迷高。非高。建橋功德者。不及蘇迷高。不足蒼海深。不可量。不可思。廣大無邊。不豎算數譬喻所也。傳聞釋尊。勿利天上。於善法堂。摩耶報恩。經說終。下天閻浮。砌持地菩薩。

從初利雲上下界金銀水精三橋渡。大梵天王執
蓋。帝釋持幢幡覆世尊。四天王圍四隅。色欲二界
天人多摩羅拔香多迦羅香薰燒曼荼。曼珠寶華
雨。世尊善哉。々々。金銀水精三橋。嘆德者。雖異凡
聖時。橋功德先蹤。目同。因茲大將軍。酬此良因。壽
算彌含彭祖七百歲。嘆。持無邊福祿。苗裔倍啓周
家八百年。眉。誇無際長樂。豈圖當家逾遂日。繁花
榮無萎。威風倍增月。四海彌彌。奉愕三寶。冥道。
展供養梵帝。嘯數口僧侶。備梵唄歌讚法味。崇八
幡三所垂迹。和光神威奉渡。初此新橋。國家安全。

武運長久。逆徒退散。衆望滿足。芳助奉備焉者也。
故爭野允足以度之初乎。誠貴哉八幡大菩薩。本
地者西方過十萬億佛土。極樂世界教主阿彌陀
如來。號之因位。昔發四十八願。引接他方衆生果
位。今立三輩九品淨土。引導娑婆群類。故一念稱名。
淪滅八十億劫生死重罪。除十惡五逆輪轉業因。
餘衆生。□假權者。神現六道。流轉允夫交殊。修羅
闍。諍。瞋。恚。翻。柔。和。忍。辱。淨。利。令。至。誓。者。也。爾。者。則
依此法樂莊嚴威光。上梵天帝釋。四大天王。天龍
八部五類。天下焰魔法皇。五道冥官堅宰。地神司

命司祿。俱生神。內海外海。龍王童衆。山神木神。江海神。天吳山祇。河伯部類等。悉哀愍納受。可加擁護。總鳥卵朝庭。大小神祇。別東守護二河。三鳴鶴岡。殊當國六所大明神。當鄉諸神祇等。法樂莊嚴。納受。是故天長地久。御願圓滿。國土豐饒。朝家彌安寧乎。伏願冥顯加威。權現合力。敵軍敗北。胡笳遽確。凶徒誅戮。要丹祈。應冥慮。可奉加守護。併大菩薩若無哀感者。本迹悲願無信乎。殊幕下士卒。君臣平而誇恩澤。身軀堅固。彌遊繁榮園。百年桂无凋。子孫信嘯生長庭。千歲松翠茂。加旃大工鍛。

治等。盡力人夫族。依此法樂惠。五軀安全。壽福增長。二世所願充者乎。兼亦來緣諸衆。感神德聞道。俗應佛恩。尚亦鄉中康哉。無事化矢極。五穀熟。誇一莖五葉。樂馬歸花山。陽牛放桃林。野民捫黍。一曲歌恰還。堯舜禹湯昔豈空乎。依祝奉宣趣益。且如斯。敬供再拜再拜謹言。

慶長五年庚子六月二十三辰上大吉日
征夷大將軍從一位右大臣源朝臣家康 敬白

按スルニ此祝文、文勢ヲ味フニ、後人ノ擬作トモイハレズ、然ルニ、東照宮從一位右大臣源朝臣家康、七年壬寅正月六日、將軍宣下右大臣ニ轉ビラレハ、八

年二月十日ナリ。年代記語ス。想フニ此祝事
ノ修セラレハ。新橋功畢。四五ノ後ニアリ
トイヘドモ。造畢ノ年月ヲ追記レテ。寄納セラ
レケルニヤ。今已ニ考ベカラズ。人接スルニ祝
事ニ與リシ類胤トイハレヤ。
ルハ。八幡神職ナドニヤ。

表門 南ニ向フ。前ニ石橋アリ。ソレヨリ多磨川
岸堤ノ邊ニ至レマデ。二丁アメリノ間。左右ニ
松杉及ビ雜木ナラビタテリ。門前ノ往還堤ニ
傍タルモノ。昔ハ東海道ノ大路ナリトゾ。コ
ノ海道今ノ地ヘウツサレシヨリ。往来ノ人モ
ニレナルニヨリ。今ハ門ヲ設ケタルノニニテ。
常ニ戸ザシタリ。

鳥居 表門ノ内ニアリ。
裏門 海道ニ向ヒテ建リ。今ハ出入コノ門ヨリ
ス。
鳥居ニ基 共ニ石ニテ作レ。
本社 二間ニ三間。祭神三座ナリシガド。今ハ一
座トナレリ。社記ニ云。イツノ頃カ祭禮ノ時。三
座ノ神輿ヲ各舩ニシテ。多磨川ニ漕出セシニ。
一座ノ神輿ヲ載セシ舩。大師河原ノ邊。大野ノ
鼻ト云可ニテ。舩底ヨリ水サシ入テ水底ニ沈
ミ。ソノアリカヲ失ヘリ。カクテ神輿ハ波浪ノ

クノキユラレテ。上総國八幡ノ岸ニツキタリ
レフ。彼所ノ人取アゲ。社ヲタテ、祭レイトゾ。
又一座ハコトニ荒神ニシテ。土人ニバク、崇ラ
受シニヨリ。衆議シテ神躰ヲ毀テ土中ニ埋ミ
シト云。共ニイフカレキ説ナリ。サレバ今神躰
ハ只一座トナレリ。祭禮ハ年ゴトニ六月十五
日ナリ。ソノ式ハ。神輿ヲ早出シ往還ノワタス。
又獅子頭ノ假面三箇ヲ持出ヅ。其餘白木綿ノ
割手三尺バカリナレモノフ。竹ノ先ニツケ。コ
レノ御旗結ト唱テカツギメグル。コレ頼朝出

陣ノ時ノ旗ニ擬セルナリトゾ。コノ祭禮昔ハ
年々八月十五日。行レテ神輿ハ隣村羽田村ヨ
リ船ニ奉ジ多磨川ヲ漕メグリシカド前ニイ
ヘルゴトク一座ノ神輿水ニ没セシ時ヨリ今
ノ日ニアラタメ舟ヲモヤメシトゾ。又旱魃ノ
時ハ獅子頭ヲイダシテ雨ヲ祈ルニ驗アリト
云。當社ニ世々造營ノ棟札ノ文ノ寫アリ其年
代ハ建久二年永享七年享祿四年等三度ニテ
其中享祿ノ札ニハ地官行方半左衛門殿代官
串田式部殿御代也トアリ

拜殿 五間ニ三間半

旗懸杉 本社ノ傍ニアリ頼朝奥州征伐ノ時爰

白旗ヲ建ラレシ所ナリト云ツトフ

東照宮御宮 容殿ノ前ニアリ石ニテ造ル相傳

フ 御入國ノ後シバ當社ヘワメラセラレ

シヨリ當時境内ニ御殿タテリ年経テ後廢セ

ラレタレド猶御座ノ地ヲ欽慕シ奉リテ 御

宮ヲツクリシト云

熊野稻荷合殿 境内ニアリ小祠

八幡塚 本社ニ向テ右ノ方林ノ中ニアリ前ニ

イヘル荒神ノ神跡ヲ埋メタルシノ塚ナ

リ村名モコノ塚ニヨリテ起リシコトハ已ニ

前ニ見ヘタリ

別當寶珠院 社地ヨリハ往還ヲ隔テ西側ニア

リ新義真言宗御幡山建長寺ト號ス本郡高畑

村寶幢院末山ナリ寺傳ニ開基辨榮承應二年

七月寂スト見エタレドコレハ中興ノ人ナリ

ベシ天正年中ノ記録ニ當寺ノ號已ニ見エタ

レバ古キ開闢ナラン本尊阿彌陀如來容殿ニ

安ス立像ニシテ長三尺餘ナリ

天照太神宮

除地一畝五歩

八幡社ノ東堤ノ下ニアリ元

禄年中ノ水帳ニ載セタレバソレヨリ前ノ勸請

ナルコトハ勿論ナリ近キ頃石像ノ神跡ヲツク

リテ小祠ノ中ニ安ス祠前若干ノ歩數ヲヘダテ

テ堤ノ下ニ鳥居ヲタツ村内東陽院持

氷川社

除地ニ往還ノ西ニアリ小祠ナリコレモ

元禄年中ノ水帳ニ出セリ東陽院持

如茂社

往還ノ西ニアリ勸請ノ年代詳ナラス小

祠ナリ東陽院持

稻荷社

字町屋前ニアリ小祠ナリ百姓長右衛門

ノ持。

稻荷社

字子ノ神ニアリ。コレモ小祠ナリ。百姓庄

右衛門持。

稻荷社

字屋敷ニアリ。祠六尺ニ八尺。百姓茂兵衛

持。

天神社

除地ニ畝字浮島ニアリ。本社九尺ニ二間。

拜殿九尺ニ二間。土人浮嶋天神ト呼ブ。此地洪水

ノトキモ。水ノ溢レ、コトナキハ。天神アルユヘ

ナリト云。勸請ノ年代詳ナラズ。村内寶珠院持。

畑明神社

雑色村ノ内ニアル飛地。字出村トイフ。

所ニアリ。昔新田義興ノ家人。畑某矢口ニテ敗軍
シ。此地ニテ遁レ来リテ自害セリ。土人コレヲ神
ニ祝フト云フ。今百姓彦右衛門宅地ノ内ニ
アリ。

寺院

觀乘寺

年貢地一段
九畝十八歩

街道ノ東側ニアリ。法華宗。安

房國長狹郡小湊誕生寺末。日經山東光院ト號ス。
開山善惠院日經上人。寛永元年創建ス。ソノ後モ
本寺ハナカレシ。承應三年ヨリ小湊末トナレ
リ。境内ノ地モトハ高木伊勢守守久陣屋ノ跡ナ

リトノミイヒ傳ヘテ。當寺ヲ開キレハカノ人ノ
建立セシニモアラズトイヘリ。本尊三寶祖師。客
殿ニ安ス。コノ祖師ノ像ハ。モト本郡下袋村圓龍
寺ノ本尊ナリ。元禄年中カノ寺廢レテ後。當寺ヘ
ウツセシトゾ。墓坐ノ裏ニ元和十三年追孝下袋
村綱島勝右衛門ト記ス。按ズルニ元和ハ九年ニ
テ改元アリ。十三年ト云ハ誤リアルベシ。

寺寶

題目

一軸

日賢上人ノ筆ニシテ。慶長五年日教上人

附屬ヒシ一軸ナリトゾ。日教ハソノ傳イ
グ考ヘズ。

祖師堂 門ヲ入テ左ニアリ。四間四方。祖師ノ座

像ハ。木像ニシテ長五寸。コノ像天明八年六月

二十六日。六郷ノ渡ニ流レヨリシ。土人トリ

アゲ多磨川岸ニ假堂ヲツクリテ安ス。然レニ

參詣ノ人日々ニ多カリケレバ。土人議シテ當

寺へ移セレトゾ。

東陽院 境内ニ除地一畝街道ヨリ西ノ方ニアリ。新

義真言宗。同郡高畑村寶幢院末。慈雲山安樂寺ト

號ス。開基ハ榮尊法印。寛永二十一年二月二十七

日寂ス。本堂ハ近キ頃回祿ニカ、リ。未再造ニ及

ハズシテ。其跡ニ寶篋塔ノタテタリ。本尊大日如

來ハ。今庫裏ニ安ス。

觀音堂 境内ニアリ。三間半四方。

稻荷祠 小祠ナリ。

地藏堂 街道ヨリ東ノ方ニアリ。三間半四方。側

墓所アリ。トモニ村持ニシテ。除地ナリ。村ニテ庵

室ヲシツラヒ。僧ヲ置テ守ラシム。

塚

糞束塚 雑色村ノ境ニアリ。里人相傳フ。昔八幡ノ
神躰一座ヲコボテシトキ。其糞束ヲ埋ミシレ
レノ塚ナリト。サレドオボツカナキ傳ヘナリ。別
ニ故アルベシ。除地四畝アリ。寶珠院持。

雑^ザ色^{シキ}村

雑色村ハ。郡ノ巽ノ方ニテ。江戸日本橋ヨリ四里ノ
行程ナリ。昔ハ六郷村ノ内ニテ。其頃ハ此地ヲ東郷
ト呼ベリ。今ノ村名イツノ頃起リシヤ詳カニセズ。
八幡塚村ト同ク分村セリト云。四方ノ疆界多クハ
犬牙シテワカテガタケレド。大畧ハ東ノ方羽田。萩
中ノニ村ニツキ。南ハ八幡塚村ニ錯リ。西ハ町屋。
道塚ノニ村ニ境ヒ。北ハ北蒲田。新堀ニ村ニ及ブ。東
西七町南北六町餘。村ノ西ノ方ニ。東海道往還アリ。

南ヨリ北へツラスケリ。其内全ク村内ニカハルモ
ノニ丁餘。往還ノ首尾ハ、南北トモニ各々一丁餘ノ
間ハ。路ノ中央ヲ界トシ。東ハ當村ニシテ。西ハ八幡
塚ナリ。民家六十二軒。多クハ街道ノ両側ニ軒ヲ
ラ子テスメリ。村内土地平ニシテ。水田少ク陸田多
シ。御入國以來御料所ニシテ。八幡塚ト同ジク伊奈
氏累代預リ奉レリ。元禄八年織田越前守檢地ス。寛
政年中ヨリハ大貫次右衛門光豊支配セリ。

小名

上^シ厨^グ子^シ 村ノ南ナリ。

下^シ厨^グ子^シ 北ノ方ナリ。

西^シ厨^グ子^シ 文字ノ如ク村西ヲ云。

東^シ厨^グ子^シ コレモ東ノ方ナリ。

山川

天神山 村ノ西北百姓八郎右衛門カ構へノ内ニ
アリ。昔コノ地へ天神ヲ勸請セシコトアリ。今ハ
ソノ宮居モナシ。サレド此名ノコレリ。纔ニ一畝
半バカリノ間ニワダカニレリ。山ト云ホトノコ
トニハアラズ。

原野

萱野 七段六畝。

附洲芝地 多磨川ノ涯ニアリ。昔ハ廣カリシトイ
ヘド。今ハ多ク崩レ入テ。存スルモノ少シ。

水利

大沼用水 村ノ乾ノ方ニ。南堀ト云流レアリ。夫ラ
引分テ村内ニソ、グ。是ラ大沼用水ト云。水源ハ
多磨川ヨリ出ツ。村南ヲ流ル、コト五六町ニシ
テ。又多磨川ヘ入。
策木用水 コレモ南堀ヨリ分ル。八幡塚村ノ境ヲ
流ル、コト一丁餘ニシテ。所々ノ耕地ニソ、ギ。

ソレヨリ村北ニ至ルコトニ丁バカリニシテ。多
磨川ヘ入レリ。村内コノニ條ノ用水ハアレド。水
上ニテ多クノ水田ヘソ、ギタル餘水ナレバ。常
ニ乏キヲ患フ。年早スルトキハ。水涸ルニヨリ。御
代官所ヘ訴ヘ。官吏ノ指揮ヲ得テ。僅ニ用水ヲ引
コトヲ得ルト云。

堤 村ノ南ヨリ巽ノ方ニ至ル。長四百二十間。御普
請所ナリ。

坎 村ノ南ニアリ。長三間横九尺。

神社

八幡社 除地六畝 西厨子ノ内。小沼耕地ト云所ニ

アリ。勸請ノ年代詳ナラズ。社ハ九尺ニ二間。前ニ

鳥居ヲタツ。年々九月十六日祭禮ヲ行フ。村内寶

泉寺持。

第六天祠 八幡社ヨリ坤ノ方。四五町バカリニア

リ。小祠ナリ。村民佐左衛門持ニテ。寶泉寺ノアツ

カリナリ。

末社

稻荷社 小祠ナリ。

御嶽社 東厨子ノ内。榮本耕地ニアリ。九尺四方ノ

祠ニテ。前ニ鳥居ヲタツ。鎮坐ノ年代詳ナラズ。祭

禮ハ年々九月十六日。村民平内持。

末社

疫神稻荷 合社

熊野社 上厨子ノ内ニアリ。本社ニ間ニ九尺。前ニ

鳥居ヲタツ。祭禮年々九月十五日。是モ鎮坐ノ年

代ハ詳ナラズ。村民竹次郎持。

末社

稻荷社 小祠ナリ。

牛頭天王社 東厨子ニアリ。社九尺四方。北ニ向フ。

前二鳥居ヲタツ。鎮坐ノ年代等傳ハラズ。祭禮ハ是モ年々九月十五日。村民四郎右衛門持。

末社

稻荷社 小祠ナリ。

寺院

寶泉寺

境内六畝七歩

東厨子ノ堤下ニアリ。新義真言宗。

本郡高畑村寶幢院末。自性山蓮耀院ト號ス。開闢ノ年代ヲ傳ヘズ。中興開山ハ祐賢大和尚。寛永九年二月二十三日寂ス。其後イツノ頃カ回祿ニ罹リテ。堂宇以下ノコリナク鳥有セシカバ。時ノ住

僧覺嚴和尚ト云シ者。カラ畫シテ再造セリ。故ニ

此和尚ヲモ又後ノ中興トス。本堂六間半ニ五間。

本尊大日如来ノ木像ヲ安ス。又辨天ノ像アリ。昔

ハ別ニ堂アリシガ。損壞ノ後廢シテ當寺ニ移セ

リ。堂跡ハ畑トナリタレバ。今ニ辨天屋敷ト唱ヘ

リ。

地藏堂

除地一畝ニ歩

字榮木ニアリ。二間半ニ三間半。南

ニ向フ。本尊ハ長三尺許。木佛ニシテ立像ナリ。

墳墓

森入道塚 村ノ巽。堤ノ外陸田ノ内ニアリ。高九尺

ハカリ徑地ノ上ニテ五間餘。雜木オビシゲイタ
ル右塚ナリ。入道ノ事實ヲ記セシモノ。村内寶泉
寺ニアリシカド。丙丁ノ災ニカ、リテ島有セリ。
今村内及ビ高畑村ニ。森一黨ト號シテ。森氏ノ百
姓蔓延スルトキハ。彼入道ハソレラガ祖先ノ内
ニテヤアルラント云リ。然ルニ昔ヨリ此塚ヲ人
オソレウヤニヒテ。敢テ近ツクコトナク。草木ノ
オヒ茂リタルモ。其ニ、ニシテ。カリトルコトナ
カリシガ。近キ頃森一黨ノ内喜左衛門トイフ者。
コノ地ノ全ナリケルニ。或時オモヘリ。入道ハ若

我祖先ナドニヤ。或ハシカラニハ。自カラアバ
キタレバトテ子細アルベカラズト。試ニアバキ
見ントセシトキ。忽崇リアリテ其事ハ果サズ。此
高貴ノ人ノ墓ナドニヤアラント。イヨク土人オ
ソレアヘリケルトゾ。按スルニ森入道ト號セシ
人ハ。季光入道西阿ノ外ハ所見ナシ。西阿ハ。寶治
ノ頃ノ人ナルコト。東鑑百練抄等ノ書ニ載テ。毛
利入道トモ。又ハ通ジテ森入道トモ記セリ。然ル
ニカノ入道ハ。著名ノ人ナレバ。其塚ノカクニテ
世ニウヅモレテアルベキイワレナシ。サレド入

道五代ノ孫。備中守師親ハ。多磨郡山田村廣國寺
ヲ建立セシコト。見ニ寺傳アリ。カ、ルコトヲ以
テ考フルニ。先祖季光入道ノ頃ヨリ。此ホトリニ
采地アリシカ。モシ然ラニハ。村民其人ヲ追慕
ノアエリ。遺器ナドノアリシヲ埋メテ。私ニイト
ナミシ塚ナルニヤ。コノ事附會ニ出シカ。又百姓
等ニ今モ森氏ヲ名ノルモノアルハ。彼入道が家
人ノ後ニテ。ワタクシニカ、ル名ノリヲセシモ
知ベカラズ。戰國ノナラヒニ。カ、ルコトモ、ハ
アレバ。イサ、カ事ノ似タルニヨリ。後ノ搜索ノ

タメニ爰ニ記セリ。

萩中村

萩中村ハ。郡ノ巽ノ方ナリ。江戸日本橋ヨリ行程四里ニ餘レリ。家數二十軒。東南ハ羽田村ニ隣リ。西ハ八幡塚村ニツバキ。北ハ北蒲田。新高ニ村ニ塚ト。東西ニ町バカリ。南北一町餘ノ小村ナリ。スベテ平地ニシテ。水田多ク陸田少シ。元禄十年織田越前守命ヲ奉ジテ檢地セリ。當村モ近郷ト同ク。御入國ノ後ヨリ伊奈半十郎ガ代々ノ御預所ナリシガ。今ハ大貫次右衛門光豊ガ御代官所ナリ。

小名

天^ア當^ラ耕地 村ノ南ノ方。羽田村ノ境ニア

リ。

宮^{ミヤ}前^{マエ}耕地 神明社前ナリ。

塚^{ツカ}田^ダ耕地

河^カ原^{ハラ}耕地

大^{オホ}道^{ミチ}下^{シタ}

江^エ川^{カハ}耕地

松^{マツ}木^キ耕地 村ノ東ノ方ナリ。

野^ノ境^{サカイ}耕地 コレモ東ノ端ニアリ。當所ト

羽田村トノ境ニ。穢多小屋三軒アリ。

神^シ明^{メイ}前^{マエ}村ノ乾ノ方ナリ。神明ノ社アリ。

故ニカク名ヅク。

水利

多磨川分水 新病村ノ境ヨリ流来リ。北ノ方神明

ノ社前ヲヘテ耕地ヘソ、グ。スベテ村内ヲ流ル

、コト百五十五間ニシテ。松ノ木耕地ト云所ニ

テニ流トナリ。ソノ一流ハ村西ノ耕地ベソ、ギ。

一流ハ村ノ南ヲ流ル、コトニ三町ニシテ。羽田

村悪水ト落合テ品川ノ海ニ入。

神社

神明社

除地一段二畝十村ノ乾ニアリ。此地ヲ神

明前ト呼フ。本社八尺ニ六尺。拜殿二間ニ一間半。

トモニ南ニ向フ。社前三十歩ヲヘダテ、鳥居ヲ

夕ツ。鎮坐ノ年代詳カナラズ。祭禮年々九月十六

日執行ス。村持。

末社

稻荷社

本社ノ右ニアリ小祠

稻荷社

除地十一畝。免除村ノ北境ニアリ。小祠。村内秀

明寺持。

太神宮

村ノ南ニアリ。百姓源左衛門持。小祠。

白山祠

村ノ東。穢多小屋ノ邊ニアリ。小祠。前ニ鳥

居ヲタツ。

寺院

秀明寺

除地四畝。村ノ西南ノ隅ニアリ。新義真言宗。高

畑村寶幢院末。川明山ト號ス。開山開基及ビ創建

ノ年代詳ナラズ。本堂五間半四方。相傳フコノ堂

ハ京師ヨリエ匠ヲ招キ下シテ造リントゾ。寶ニ

其サ下普通ノ堂ト同シカラズ。本尊聖徳太子ノ

像。作佛トノミ云傳ヘテ。彫刻ノ人ヲ傳ヘズ。世人

崇信シテ参詣ノ人多シ。

寺寶

曼陀羅

此曼陀羅ハ。何人ノ書ト云事ヲ傳ヘズ。此邊ニ住セシ。賈人ノ奉納ヒシナリ。其由緒ヲ尋ヌルニ。賈人ハモト故紙ヲ買フコトラ家業トセシ。貧窶ノモノナリ。一日此一軸ヲ買得テ。當寺へ寄附セシニ。利益ノ聞エアリテ。参詣ノ人日々ニ多ク。賈人モコレガ爲ニアニタノ利潤ヲ得テ。富ヲ致スニ至レリ。當寺太子

ノ世ニ聞エシモ。其實ハコノ曼陀羅ノ利益ニヨレリトゾ。

古碑 境内ニアリ。光銀大徳。明應九年四月十六日ト刻セリ。

羽田村

羽田村ハ。郡ノ巽ノ方。海岸ニソフ地ニテ。郷庄ノ名ヲ傳ヘズ。其村名ノヨツテ起ル所ヲ詳カニセズ。村ノ四境ハ。東ヨリ北ヘカ、リ海面ナリ。西ハ雜色村。南ハ多磨川ヲ堺トシ。川向ハ橋樹郡稻荷新田ナリ。北ハ萩中。濱竹ノ二村ニ隣リ。乾ノ方ハ八幡塚村ノ飛地ニサカフ。村ノ廣ハ。東西凡ニ十八町程。南北凡四町ニシテ。帯ノゴトク海ヲメグレル地ナリ。民家ハ多ク西北ノ方ニ住シテ。二百七十軒アリ。昔天正

十八年マデハ。北條ノ家人行方彈正カ世々領セシ
所ナリ。故ニ北條家ヨリ與ル處ノ文書ニ。ソノコト
ヲノセテ。行方修理亮。同典次郎等カ假名ヲシルセ
リ。御入國ノ後ハ。御料所トナリ。正保ノ項モ伊奈
半十郎支配セリ。ソノ後ノコトハ詳ニセズ。今大貫
次右衛門ガ支配スル所ナリ。又江ノ湯島根生院ノ
領トテ。ワヅカニ一石六斗アリ。コレハ彼院領。初郎
内六郎領久ヶ原村ニアリシヲ。御用地トナリ。其替地
トシテ。天和元年當所ヲ賜ハレリ。又村高ノ外ニ十
二石五斗二升餘ノ地ヲ。元文年中綱差ノ事ヲ兼ル。

源太郎トイヘル者ノ願ニヨリテ。新ニ開墾ノ事ア
リシカバ。ヤガテ神尾若狹守ガ檢地シテ。カレガ作
徳ニタニヘリ。其所ハ西南ノ方雜色村ノ境ニアリ。
此所ハ里正ノアヅカレ所ニモアラズ。又別ニ民家
モナク。元ヨリ當村ノ内ナレバ。本村ニ屬シ。ソノ所
ヲ名ヅケテ源太郎請トヨベリ。スベテ此邊海畔ナ
レバ。土性尨鹵ニシテ。ワヅカニ真土ニシリナリ。男
女農作ノイトニハ。專ラ漁獵ヲ業トシ。貝ナド拾
ヒテ江戸ニヒサギ。生産ノ資トセリ。檢地ハ元禄八
年織田越前守兼リニテ糺セシナリ。新田ハ享保十

七年ノ初ニテ。追々ウチ出セリ。

高札場 村ノ坂ト。獵師町ノ内西町ノ間。四辻ニアリ。

小名

上田 村ノ西ニヨリテアリ。此邊スベテ

西馬場耕地。東馬場耕地トモイヘリ。フ

ルクハ馬場アリシ所ト見ユ。其故ヲ傳

ヘズ。

海老取 村ノ南ノ方。川縁ヨリ海老取川

ニカ、レバ。カクイヘリ。

天當 耕地 村ノ西南ノ方ヲ云。

駿河 耕地 坤ノ方。

久我 耕地 村ノ中央。

尾崎 耕地 前ノツバキ西ノ方。

野崎

鷹取野 東ノ方ヲ云。古ノ此所ニテ屢御

放鷹アリシユヘ。コノ名アリトイフ。

山川

多磨川 村内南ノ方ヲフル事二十八九町許ニシテ。海へ入。川幅八十間アリ。

水利

用水 雜色村ヨリ當村ニ入。四町許ヲヘテ字東馬
場ト云所ニ至リ。三流トナリ。一流ハ萩中村ノ塚
ヲ流ル。コト凡六町。一流ハ多磨川堤ノ下ヲ流
レ、コト。ニタ六町バカリニテ。田場ヘカ、リ。夫
ヨリ北ノ方。三ノヤ耕地ニテ海ヘ流レ入。
多磨川水除堤 西ノ方。雜色ノ塚ヨリ屈曲シテ海
老取川ニ至リ。亦北ノ方廻屋村塚ヨリ。猶北ヘカ
カリ。海老取川ノ西流ニテ。前ノ堤ニ續ケリ。是ヲ
三ノヤ堤ト云。長凡ニ千二百六十間程。公ヨリ

修補ヲ加ヘラレ。

神社

神明社 除地一畝。久我耕地ト新耕地ノ間ニアリ。本
社五尺ニ六尺。神體ハ木ノ立像ナリ。長二尺餘。拜
殿三間ニ二間。東向ナリ。祭禮ハ九月十六日ニ行
フ。

山王社 除地一畝。村ノ中央。往還ノ端ニアリ。右小祠ナ
リ。南向。自性院ノ持ナリ。

稻荷社 除地二畝。四歩。字西馬場ノ耕地ニアリ。小祠。東向。
本住寺ノ持。

神明社

除地六畝。宮地二畝。字駿河耕地ニアリ。小祠

ニテ。東向。本住寺持。

稲荷社

是モ同所ナリ。菟中村秀明寺ノ持ナリ。

寺院

本住寺

年貢地五畝。西北ノ方。西馬場耕地ト東馬場

耕地トノ堺ニアリ。朗長山ト號ス。法華宗ニテ池

上本門寺ノ末寺ナリ。開祖ハ佛乘院日惺聖人ナ

リ。慶長三年七月六日寂セリ。此寺上古此地ニア

リシヲ。一旦故アツテ尾張國ヘウツリ。其後ニタ

此所ニ再造セリ。カノ國ニモ今ニ本住寺ト云大

寺アリドイヘリ。張州府志云。本住寺ハ愛智郡東

寺町ニアリ。長壽山ト號セリ。法華宗ニテ池上本

門寺ノ末寺也。元武藏國荏原郡六郷ニアリ。永祿

三年六郷ノ城主。行方修理太夫。及ビ妹尾三河守

等。カラヲ合セテ創建ナシ。本門寺十一世日現上

人ヲモツテ開山トセリ。ナカゴロ兵亂ノワサハ

イニ遇テ。荒廢ノ後。尾刈ノ人加藤某ト云モノ。同

國清須ニ移シテ堂舎ヲタツ。其後ニタ今ノ地ニ

ウツヒリ。羨濃尾張二國ノ池上派ノ司ヲナセリ

ト云々。按スルニ。彼書ニ云所ト。コノ寺ニ傳ル所

ト略同ジトイヘドモ。今モ尾張國ニ本住寺アル
ヲ以テオモヘバ。再ビ當國ヘ移セシ後。カノ國ニ
モ猶本住寺アリテ。是ヨリニ寺トナリシナルベ
シ。コハニ開祖ハ日暿上人トイヘド。恐クハ中興
ニテ再ビ此地ニ移リシ時ノコトナルベシ。本尊
ハ三寶祖師ノ木像ニテ。長六寸バカリナリ。本堂
七間ニ六間、東向。
七面堂 本堂ノ右ニアリ。三間ニ二間。本尊ハ木
ノ立像ニテ。長七八寸許ナリ。
正藏院 境内免除地ニ 字西町ト云所アリ。喜修
段一畝八歩

山了仲寺ト云。新義真言宗ニテ。高畑村寶幢院ノ
末ナリ。古キ寺ナリトイヘド。開山ヲ詳ニセズ。昔
ノ本尊不動明王ハ。傳教大師ノ作ナリ。寶徳二年
僧都重仙ガ住職セシ時。修補ヲ加フ。ソノ後文祿
四年中興法印乘信ト云シ人。又修復セシナリ。此
本尊今ハ別ニ堂中ニ安置シテ。大目如來ヲ是ニ
カヘテ本尊トセリ。木ノ坐像ニテ一尺餘ナリ。客
殿ハ九間ニ七間半。庫裏客殿ノ左ニアリ。八間ニ
五間。當寺ノ境内ハ。慶安三年洪水ノ患アリテ。其
頃多ク多磨川ニカケ入シカバ。其堰モサダカナ

ラズ。サレドモトヨリ除地ナリシニヨリ。元禄八年ノ秋ニ至リ。請奉リテ織田越前守ガ檢地ヲ受テ。イヨク、除地トナレリ。

淡嶋明神八幡春日合社 本堂ノ右ニアリ。社ハ二間ニ二間半ナリ。此淡嶋ノ像。弘法大師ノ作

ト云。文禄年中ヨリコ、ニタテリト。縁起アレド信用スベキコトナケレバ畧セリ。

自性院

除地四段三畝十二歩

字西町ノ中央ニアリ。常榮山

本覺寺ト號ス。高畑村寶幢院ノ末ナリ。本堂東向ニテ。十一間ニ七間ナリ。本尊ハ不動愛染ノ兩明

王ナリ。共ニ坐像。長三寸バカリ。開山ハ詳ナラス。

中興開山ハ法印惠朝トイヘリ。

牛頭天王社 境内ニアリ。除地九畝二歩。免田一

段一畝二十二歩。當村及獵師町ノ鎮守ナリ。本

社一間四方。拜殿三間ニ二間。鳥居ニ基タテリ。

神體ハ本地佛藥師如來ノ立像ナリ。長三尺許

リ。稻毛領平村ノ八幡神主小泉氏社役ヲツト

ム。祭禮ハ六月六日ヨリ十一日ニテ。神輿ヲ渡セリ。

稻荷社 社地ノ内ニアリ。尤小祠。

黄揚^ツ地藏^ゲ 道ノ傍ニアリ。堂ハ四間ニ三間ナリ。本尊石ノ地藏尊。長ニ尺許立像ナリ。近キ頃松平大隅守某。故アツテ此堂ヲ建立セシト云。里人ノ説ニヨレバ。大隅守病アリシ時。夢ノ告アリテ。此地藏尊ニ立願シケレバ。忽其病イエシニヨリ。悦ニタヘズカク造立セシト云。其詳ナルコトヲシラズ。ツゲ地藏トイヘル名ヲオヒシモ。カノ夢ノ告アリシニヨリテナリ。後ハ堂ノ傍ニ黄揚ノ木ナド植テ。文字モカクシルルナリ。是モニサシキ事ヲキカズ。

地藏堂

ニ除地。十四^二过ニタテルユヘ。土人羽田^{羽田}过堂

トイヘリ。今ハ阿彌陀佛ヲ本尊トスレド。元ハ地藏尊ナリシ故。地藏堂ト唱フ。堂ノ中ニ西國三十三番ノ札所ノ観音アリ。トモニ長八寸許。

舊跡

真珠院跡 字仲町ト云所ニアリ。今生山ト號セリ。昔高畑ノ寶幢院ノ門徒ナリシガ。イツノ頃ニカ廢寺トナリテ。今其跡年貢地五畝二十一歩。正藏院ノ持ナリ。

舊家

百姓市左衛門氏ヲ増田ト云。今此村ノ里正ヲツ
トム。獵師町ニ住ムル四郎兵衛ガ分家ナレバ。カ
ノ條ニ合セ見ルベシ。

羽田^{ハチ}獵師^ダ町

獵師町ハ。元羽田村ノ内ナリ。是モ天正十八年ニテ
ハ。北條ノ家人行方與次郎ガ領セテ所ナリ。其頃ノ
文書アリ。其文ニヨレバ。此邊クハ羽田浦ト稱セリ。
其後ヤ、田地モ出來テ。人家ニシケレバ。総テ羽田
村ト呼シトニユ。獵師町トイヘルハ。カノ枝郷ニテ。
全ク後ノコトナルベシ。正保ノ頃改定ノ國圖等ニ
ハ。羽田村トノミ記シテ。獵師町ハ見エズ。其頃ハ伊
奈半十郎ガ支配セル御代官所ナリ。又元禄年中改

ノラレシ圖ニハ、ハヤ羽田村。同獵師町ト並載セタ
リ。是ニヨレバ。正保ノ後元禄ノ前ニ。獵師町ノ名ハ
出來シコト知ベシ。元ヨリ羽田村ニ混ズレバ。今其
境畧ラバサダカニ云ガタシ。總テ東ノ方海ニ傍タ
ルトコロハ。獵師ノミ多クアレバ。カクイヘリ。家數
三百軒餘ナリ。コ、モ今ハ大貫次右衛門ガ支配所
ナリ。因ニ云。其所ニ平田船十五艘。茶船ト云モノ
三十八艘。是ハ皆極印ヲウケテ分テリ。昔元和年中
大坂ノ役ニ。軍船ヲ多ク出セシエヘラ以テ。今ニカ
ク極印ヲ賜ヘリ。其文字ハ言ノ字ヲホレリ。故ニ御

免言字御極印船トイヘリ。

山川

海老取川 此川ハ多磨川ノ枝流ニシテ。字野崎鷹
取ノ間ヲ流ル。幅八間ホド。長三町餘。南北へ達シ。
北ハ海岸ヘソ、ゲリ。

扇ヶ濱 此浦ノ内ナリ。辨欺天ノ社アル所ヲ。要嶋ト
イヘルモ。此扇ヶ濱ノ名ニヨレリト云。サレド要嶋
ノ名アリテ。扇ヶ濱イデキシモ知ベカラズ。

神社

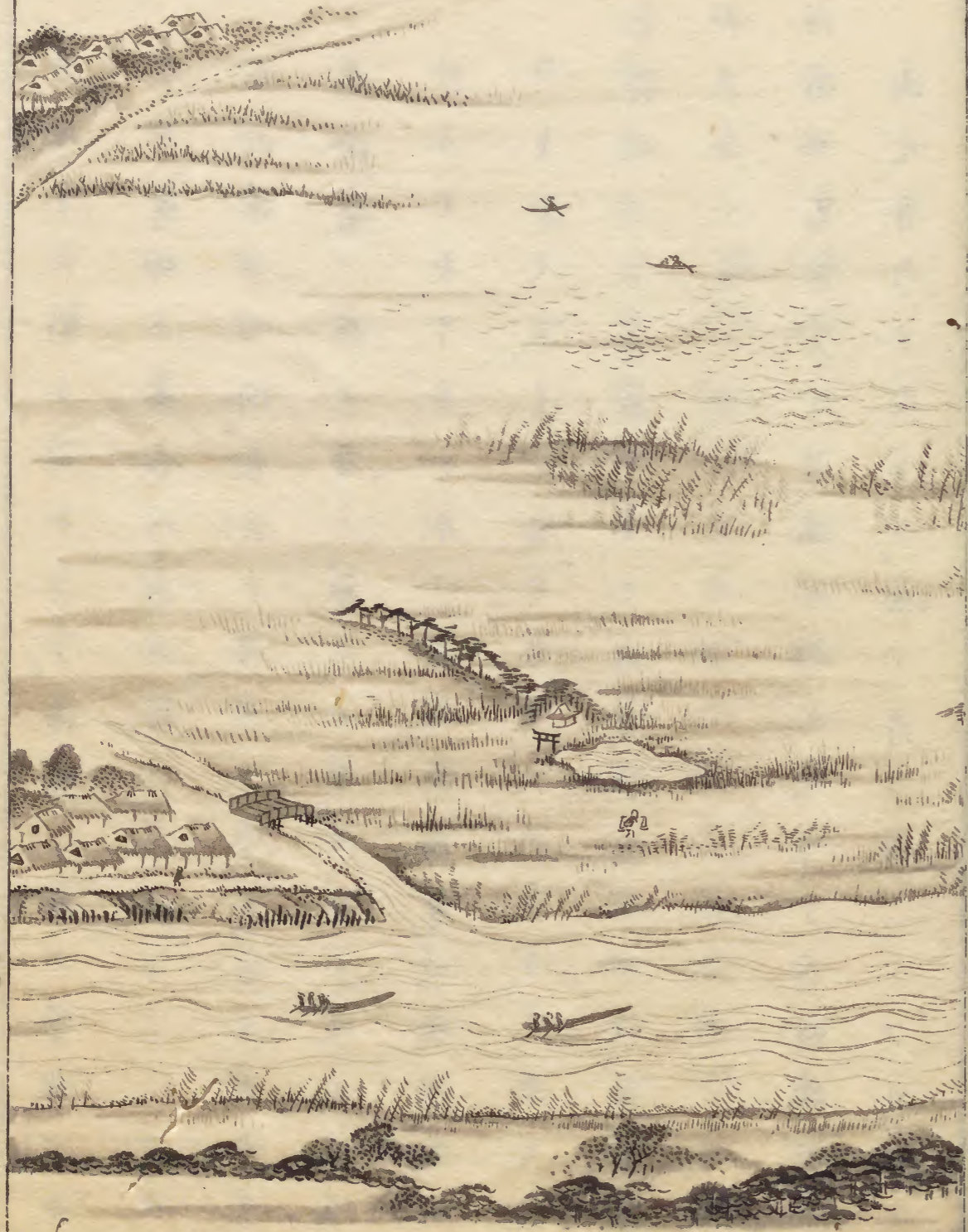
辨天社 東町ノ内。要嶋ニアリ。其所ヲ鷹取トモイ

へり。山ヲ金生ト稱ス。社ハ三間四方南向ナリ。神
體ハ如意寶珠ニテ。海中ヨリ出現セリ。此如意寶
珠ハ。昔上ノ宮ニアリシヲ。後此處ニ宮居ヲタテ
テ。アガメ祭リシヨリ。コヽヲバ下ノ宮ト呼リ。上
ノ宮ト稱スルモノハ。此所ヨリ遙ニ隔リテ。別當
龍王院ノ境内ニアリ。此神躰ノ事ハ。上ノ宮ニオ
サムル縁起ニノス。其條ニツイテ見ルベシ。又前
立ニ辨天ノ像アリ。木ノ坐像ニテ。長ニ尺許。脇ニ
十五童子タテリ。是ハ尤近キ頃ノモノナリ。境内
ニ鳥居ニ基タテリ。一ハ柱間ニ間ニテ西向ナリ。

前ニ多磨川ノ流ヲ堀入。小橋ヲワタセリ。一ハ柱
間七尺同ジ向ナリ。昔ハ此ヨリ南ノ方ヘサシテ
六十間アメリノ大門道アリ。其半ニ石ノ鳥居ア
リシガ。年々霖雨ノ頃。川ノホトリノ九六七十間ガ
ホド。欠入シカバ。今ハ其鳥居モ立ベキ地ナケレ
バ。其儘河ノホトリニ横タハレリ。何ノ頃カ海岸
ヲ石ニテタタミシガバ。今ハ川欠ノ患モナシト
云。祭禮ハ正月五月九月十四日ニ行ヘリ。

末社

宇賀神社 本社ノ南ニアリ。ワヅカナル祠ナリ。



四

辨天社地眺望圖



廻リ = 駒ヨセタテリ。神躰ハ木ノ寶珠ノ中ニ。
宇賀神ノ木像ヲ安セリ。

白山社 小祠。本社ノ西ニアリ。鳥居モクテリ。

高燈籠 社ノ巽ノ方ニアリ。十月ノ頃ヨリ。漁人

スナドリスル船ノ標ニ。此燈籠へ火ヲ點ズル

トイヘリ。近キ頃ハ僅ニカタバカリ残レリ。

稻荷社 字鷹取ニアリ。辨天ノ西ニシテ。其社へハ

ウズル道ノ傍ニアリ。社ハワヅカ一間ニ間。南

向ニ鳥居タテリ。幅一間。土人呼テ白魚稻荷ト云。

漁人白魚ヲ取コロ。初テ得シ時ハ。マヅ此社ニ供

フル故ニ。カクイヘリ。

稻荷社 除地ニ 字馬場耕地ニアリ。小祠南向ナリ。

辨天社 除地一段 字西町ニアリ。拜殿二間ニ一間

半。本社ハ一間四方ナリ。神躰ハ弘法大師護摩ノ

灰ヲ以テ作りシ像ナリ。長一尺ばかり。是ヲ羽田

辨天ノ上ノ宮トイヘリ。社傳云。昔僧龍海ト云シ

モノ。アレ夜ノ夢ニ。辨天ノ告アリテ。イクホドナ

ク如意寶珠ヲ得タリ。其故ヲ尋ヌルニ。當國多磨

郡日原山ノ麓ニ。弘法大師ノ草創アリシ。大日ノ

堂アリ。其所ノ靈水ノ中ヨリ。一顆ノ寶珠ヲキ出。

イツシカ多磨川ノ流ニ從ヒテ。羽田村ノ邊ト
ドマレリ。其頃水中ニ光ヲ放ツモノアリ。晝夜
ヤミズ。里人モ殊ニアヤシニ思ヘリ。然ルニ龍海
アル夜不思議ノ夢ノ告アリテ。カノ玉ヲ得シカ
バ。大ニ悦ビ。コノマ、置ベキニアラズトテ。ミヅ
小祠ヲ營ミテ是ヲ祭り。傍ニ一字ヲタテ、別當
所トス。後威光山龍王院ト號セリ。今是ヲ上宮ト
云。又夫ヨリアニタノ星霜ヲ歴テ。別當海譽ガ時
ニ至リ。堂舎コトク荒廢セシカバ。修理ヲ加ヘ
テ。舊ニカヘサシコトヲ思ヒタケレド。オノ方

カラニ及ビガタケレバ。心ニモアラゲヤミヌ。其
頃里人海老名太兵衛某ト云シ者。有信ノ人ニテ。
ヤガテ本願主トナリテ。村民等ヲカタラヒ。又漁
人ナド催シタテ、タガヒニカラヲ合セ。幾ホド
ナク思ヒノマ、ニ修補ナレリ。又海譽アル夜ノ
夢ニ。一老翁來リ告テ云。今江戸ノ御家人有馬純
政ガ家ニ。弘法大師ノ作レル辨天ノ像アリ。汝是
ヲ請得テ此所ニ安置セヨト。マサシク告ルト見
シカバ。海譽奇異ノ思ヲナシ。ヤガテ江戸ニオモ
ムキ純政ガ屋舗ヲ尋子。告ノマ、ニ其事ノ由ヲ

述テ。カノ像ヲコヒシカバ。純政モカ子テ所持セ
シコトナレバ。タヤスクウケガヒ。ヤガテ家人堀
山孝良ヲ使者トシテ。彼像ヲ此社ニオサメシト
云。是ハ上宮ニ安置ス。事ハ縁起ニ詳ナレド。ウケ
カヒガタキ事多ケレバ。其大意ヲトレリ。又辨天
祠記トイヘレモノ當社ニアリ。其記ス所ハニタ
コトナリ。其記ニ云。此辨財天ハ。弘法大師ノ刻ス
ル處ニシテ。往古ヨリ此ニ鎮坐アリ。其後建武ノ
兵亂ノ時。盜賊ノ爲ニ侵掠セラレ。宮殿等モ破壊
ニ及ビ。タハカタバカリ残りテワヅカノ草堂ノ

内ニ安セリ。夫ヨリアニタ年歴ヲ経テ。高橋重言
ト云シ者。夢ノ告アリテ新像ヲ刻ミテオサメシ
ト云。是ニヨレバ。大師ノ刻セシ像ハ兵亂ノ時失
シニヤ。何ニモ其傳フル處詳ナラ子ド。暫ク爰ニ
記シ置ノミ。
天神社 本社ヘ向テ左ノ傍ニアリ。小祠ニテ東
向ナリ。
別當龍王院 威光山常樂寺ト號ス。新義真言宗
ニテ。高畑村寶幢院ノ門徒ナリ。開基ノ人ヲ詳
ニヒス。中興ハ法印融惠トイヒテ。弘治三年入

院セシヨシ。寺ノ舊記ニ載タリ。其餘ノ事跡ハ
傳ヘス。海譽法印トイヒシ僧ヲ。後ノ中興トイ
ヘリ。是ハ尤後ノ世ノ人ナレド。堂舎再造セシ
功アレバ。カク稱セルナレベシ。此人ハ寶曆三
年三月十四日寂セリ。本堂ハ四間半四方ニテ。
南向ナリ。

寺院

觀藏院 境内年 字中町ニアリ。海照山東照寺ト云。
新義真言宗ニテ。是モ高畑村寶幢院ノ門徒ナリ。
本堂南向。四間半四方。本尊ハ地藏尊。本佛坐像ニ

テ長一尺許。開山ハ詳ナラズ。

稻荷社

一除地 畝 堂ニ向テ右ノ方ニアリ。社ニ間ニ
三間。南向。内陣ハ三間許。石ノ鳥居ヲタテリ。

長壽院

二除地 九畝 字西町ニアリ。山ヲ長久ト號シ。

寺ヲ無量ト云。是モ新義真言宗ニテ。寶幢院ノ門
徒ナリ。本堂ハ三間半四方ニテ。北向ナリ。本尊阿
彌陀如來ヲ安ス。開山ハ寬覺法印ト云。時代詳ナ
ラズ。

長照寺

三除地 二段 三 朗羽山ト號ス。法華宗ニテ。池
畝 十ニ歩

上本門寺ノ末寺ナリ。開山ハ日暹聖人。慶長三年

七月六日寂ス。本堂ハ七間ニ六間。北向ニテ本尊
ハ三寶ヲ安ス。又太閤秀吉ノ守本尊ナリシトテ。
開運妙見大菩薩ヲ安ス。相傳フ此尊像ハ故アツ
テ秀吉ヨリ老臣増田右衛門尉ニ與ヘラル。彼ガ
子孫ユカリニツキ。此村ニ來リ世々土民トナリ
テラレリ。今ノ増田四郎兵衛ガ家はナリ。其祖先
其ナルモノ。カク民間ニ落テテ賤キ身トナリ
テ。カ、ル靈佛ヲ守護センハ。恐レアリトテヤガ
テ此寺ヘ納ノレト云。
鬼子母神堂 門ヲ入テ左ニアリ。堂ハ三間ニ

間半。木ノ立像ニテ長一尺二寸。

舊家

百姓四郎兵衛 増田右衛門尉長盛ガ末葉ナリト
云。其事歴ノ詳ナルコトヲ傳ヘズ。

百姓清左衛門 伊東ノ氏トス。伊豆ノ伊東ノ末葉
ナリトノミ傳ヘテ。是モ詳ナラズ。

百姓茂兵衛 潮田氏ニテ。世々此處ニ居テ魚獵ノ
コトヲナセリ。北條家盛ナリシ頃ハ。行方氏ノ昔
ラウケテ。魚ヲ取テニイラセタリ。今ニ北條ノ頃
ノ文書等ヲ持ツタフ。又別ニ文書モアリ。其傳フ

ル故ハ詳ナラス。按スルニ橋樹郡ニ潮田村ト云
地名見ユ。モシ此所ヨリ出シ人ニヤ。

文書

七通

羽田浦政造ヨリ
羽田石ヨリ
仲中ノ舟トカ
或他ノ執權行キ

如法友ニ為ル
罪科トモ
何カ
件

戊辰永禄十一年

北條氏虎印

戊辰
八月十日

北條氏虎印

仍方在馬名度

羽田浦之退轉付也。當年本年

之方定事。

武艘 松

七人 舟方

坐

右當年本年武艘七人嚴

審之乞廻之舟方之威也般

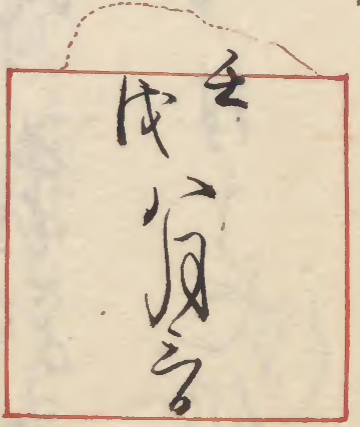
免之。到之本年舟方未不

浦中出舟之。以拾便之人也。

作付也。仍狀如件。

永禄五年

北條氏虎印



北條氏虎印

行方より即返

北條氏虎印

口北日光寺白号念勝代日守部

此之人能... 下之... 念勝代日守部... 北條氏虎印... 永禄五年

了。他。中。無。國。人。到。此。地。也。其。心
竹。多。心。乃。成。成。也。其。心。亦。不。可。致。心
多。行。心。乃。海。也。

九月十日

氏道

氏

五。心。太。書。友

正。本。甲。午。秋。棟。別。二。年。致。意。納。等。本。年
隆。三。為。在。公。臨。年。一。定。三。心。是。納。由。中
分。祀。每。年。一。忌。也。其。心。自。由。年。中。家。殺。世。心
乃。中。也。其。心。淺。七。者。十。又。商。月。時。日。也。其。心。納。也。
新。是。一。心。也。其。心。乃。是。其。心。也。其。心。乃。是。其。心。也。
其。代。官。百。姓。亦。三。心。也。其。心。乃。是。其。心。也。其。心。乃。是。其。心。也。

永祿三年庚申

北條義虎印

印

九月朔日

信之

代友

百姓申

按布施善三ナレシ

熊心申入山河之流事申我申
長々小田原に在る。一所。此所。人。皆。完。終。

今。及。山。安。人。是。水。山。谷。力。申。申。
不。可。交。後。事。及。人。是。水。山。谷。力。申。申。
近。此。亦。有。當。城。之。事。申。申。申。申。申。
此。之。事。申。申。申。申。申。申。申。申。申。
前。之。事。申。申。申。申。申。申。申。申。申。
此。之。事。申。申。申。申。申。申。申。申。申。

二月廿日

北條
宗景
書

仍得

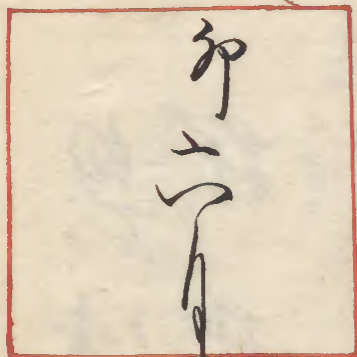
伊豆宿

米拾五貫文

品川

以上

北條氏虎印



卯二月十日

何如件

右於品川拾五貫文。米子三貫
代物。具之。渡者。如世。有。納。法。如。此。此
分。五。貫。因。買。調。所。為。如。此。一。貫。也。

興津反 櫻井反

多事及以侵之申由。連之申言。城前。累
代。結之。申。何。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
張。信。之。申。何。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
惟。此。輝。虎。日。前。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
惟。此。輝。虎。日。前。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也

其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也
其。國。定。夫。時。之。申。言。之。由。旨。之。由。方。之。押。懸。然。人。也

新編武藏風土記卷之四十終

二月廿日

成田左衛門次郎

輝虎

五

新編大正天皇御紀

卷之五

庚午年

五月

二十

